○議長（森　弘秋君）　ただいまの出席議員数は６人です。定足数に達しておりますので、休憩前に引き続き会議を開きます。

１番　古川元規君。

○１番（古川元規君）　古川です。８月中頃から不安定な天気が続いておりましたが、ようやく舟橋村でもコシヒカリの刈取りが始まっております。そんな稲刈りの真っ最中、私からは農業に関連して２つ、通告どおり質問をさせていただきたいというふうに思います。

まず１点目、米価下落、肥料費等の高騰、この対策についてお伺いしたいというふうに思います。

昨年、コロナ禍による需要不足を主要因としまして、農協の米の概算の買取り価格に大きな下落がありました。多くの農業者は、赤字経営ないしはそれに近い状態となりました。本年の概算価格は多少は戻したものの、コロナ以前の水準にはまだ程遠く、さらには肥料費、燃料費等をはじめとしてあらゆる資材費の高騰の中、来年以降の農業の継続は非常に困難な状況となってきております。

それを受け、本議会において補正予算として、舟橋村水田農業経営緊急支援事業として１０アール当たり２，０００円の補助をする議案が上程されております。これは大変によいことであると思いますし、ようやく他の市町で行われてきた補助と同等の支援を行うことができるということをうれしく思います。これについては、まず素直に、農業者を代表してお礼を申し上げたいと思います。

しかし、状況はまだ予断を許しません。９月５日、各社の新聞にも掲載されておりましたが、農水省が公表している令和４年７月の農業物価指数では、前年同月比で肥料は３６．５％の値上げに対しまして、米の価格は逆に１６．６％の値下がりという、なぜか米については原材料費の高騰が価格に反映できていないという大変衝撃的な事実が判明しました。

他の自治体では昨年の米価下落を受け、いち早く決断に乗り出したところもありましたが、それに比べれば、今回上程されておりますこの支援は遅いと言わざるを得ませんし、その後もさらに悪い状況が続いている現状を踏まえると、十分とも言えないように思われます。

農業を基幹産業にすることを掲げる当村として、このような危機的な状況においては他の自治体以上に一層の支援をお願いしたいと思います。特に利益が上がらないこの現

状は、農業をなりわいとする専業農業者の割合が、専業に近づけば近づくほど、ある意味では、そこに生活の主眼を置いていない兼業農家よりも死活問題となってきております。

ですので、村の農業を担っている認定農業者に向けて、より手厚い支援をするべきであるというふうに考えますし、このままでは農業の産業化、またブランディング、それ以前に農業の担い手自体がいなくなってしまうおそれさえあります。

以上、この問題につきまして、村長の思いや、また考えておられる対応策などありましたら、お聞かせいただきたいというふうに思います。

次に、２点目、オーガニックビレッジ制度の活用についてでございます。

先月、農水省の有機農業担当の生産専門官の方とお話をする機会がございまして、農林水産省では、みどりの食料システム戦略を踏まえ、有機農業に地域ぐるみで取り組む産地、オーガニックビレッジの創出に取り組む市町村の支援に取り組んでいるとのことでした。

オーガニックビレッジとは、有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取組を進める市町村のことを言い、農林水産省としては、このような先進的なモデル地区を順次創出し、横展開を図っていく考えであるとのことです。

３月議会におきまして、有機学校給食実現への支援こそが農業ブランディングへの確かな道であるとの思いで質問をさせていただきました。今後もこれについては追って質問をさせていただきますとも述べさせていただきました。まさしくこのオーガニックビレッジの制度を活用することで、そのような取組も円滑に進められるのではないかというふうに考えます。

県内では南砺市が既に手を挙げており、先を越されている、そのような状態です。コンパクトな村である舟橋村としてもぜひ早急に取り組むべき施策であるというふうに考えますが、当局としてどのようにお考えかお聞きしたいと思います。

以上です。

○議長（森　弘秋君）　生活環境課長　田中　勝君。

○生活環境課長（田中　勝君）　１番古川議員のオーガニックビレッジ制度の活用に対する質問にお答えいたします。

有機農業については、環境に配慮した信頼性の高い作物を生産できることから、自然

にも体にもよく、安心して食べることができる作物であるとともに、ビジネスの観点からも消費者に強くアピールできるものがあります。

農林水産省では、みどりの食料システム戦略を踏まえ、有機農業に地域ぐるみで取り組む産地、オーガニックビレッジの創出により取り組む市町村に対して支援に取り組んでいます。

オーガニックビレッジは、有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取組を進める市町村であり、国では先進的なモデル地区を創出し、横展開を図ってきたところであります。

議員ご指摘のとおり、南砺市さんで取組を行っていらっしゃいます。南砺市さんにお話をお聞きしますと、中山間地の農業者が生き残りをかけ、ブランド米を作らなければならないという使命感と、農家同士で連携し合い有機米を生産し、南砺市の農業の目玉としたいとの目標から、県内に先駆けてオーガニックビレッジ制度の活用に至り、現在は有機農業の生産者が約３０名、総面積が約３０ヘクタールとのことでした。

村では、現在、有機農業の生産者が１経営体、面積が水稲で約２ヘクタールであります。村としては、昨年から学校給食で行っている「エコ給食の日」等を推進し、消費者に有機農業を知っていただく機会をつくってまいりたいと思いますので、できれば古川議員さんにはぜひ農家の中心的存在となり、有機農業の多くの方に理解してもらえるよう賛同する農家を増やし、そうした機運を高めていただければと思います。

村としては、農家全体が同じ方向に向けて進んでいくのであれば、ご支援、ご協力をしてまいりたいと思いますので、議員のご理解を賜りますようお願い申し上げて、答弁とさせていただきます。

○議長（森　弘秋君）　村長　古越邦男君。

○村長（古越邦男君）　私からは、米価下落、肥料費等の高騰対策に対します質問にお答えをさせていただきます。

当村は農業を基幹産業と位置づけ、９戸の認定農業者を中心に５４戸の経営体が農業に励んでおられ、村の農地を保全し、緑豊かな景観を守っていただいております。

さて、昨今の農業を取り巻く環境は大変厳しく、世界的なインフレ、円安、さらに追い打ちをかけるようにして、ロシアのウクライナ侵攻の影響により、肥料及び原油生産国の輸出規制等も加わり、今年度以降もさらなる肥料価格の高騰が想定され、農業経営を圧迫されることを懸念しているところでございます。

今年度の対策といたしましては、農家支援といたしまして、肥料価格高騰分として水田面積１０アール当たり２，０００円の予算を計上いたしました。

金額の算定に当たっては、アルプス農協からの資料を基にいたしまして、令和３年から令和４年の肥料価格の上昇分が１０アール当たりで１，４１０円。そして、燃料代の上昇を加味いたしまして、２，０００円と設定させていただきました。この金額は、他の市町に比べても見劣りしない金額だと思っております。

米価の下落につきましては、令和３年は令和２年よりコシヒカリ１俵で２，０００円の減となり、１０アール当たりで約１万８，０００円の減収となり、非常に厳しい結果となりました。認定農業者の方は、米の価格の下落分について、国の補助制度「ナラシ対策」もしくは共済組合の収入保険により、収穫量にもよりますが、減収分の９割は補塡されると聞いております。

今年度の村の対応といたしましては、米価下落に対し、少しでも認定農家の負担が減ればとの思いから、収入保険の加入者に対して、保険料の２割を３年間、村単独で補助する支援策を設けております。農業機械や施設の補助についても、他の市町にない、村単独の補助を設けております。

懸念される来年度以降の肥料価格高騰分等につきましては､他の動向を十分に注視し、村の農業者の方が安心して農業に励めるよう検討してまいりますので、議員のご理解を賜りますようお願い申し上げて、答弁とさせていただきます。

○議長（森　弘秋君）　古川元規君。

○１番（古川元規君）　今ほどは、ご答弁ありがとうございます。

農業者の支援につきましては、今後もいろいろと状況が目まぐるしく変わる中、いち早い対応をお願いしたいというふうに思います。

例えば、秋の稲刈りが終わりますと、もう来年の資材等をどれだけ購入するか、そういうものを決めていく、そういう季節に入ってまいります。なかなか先の見通しが立たない状況では、じゃ、ここをけちろうかとか、何かいろいろと考えながらやっていかないと、この現状ですので、立ち行かないということもあります。

安心感を与えるためにも、先手先手で補正等を組んでいっていただければ大変ありがたいかなと思いますので、引き続きそこを注目していただきたいというふうに思います。

２点目、有機農業、オーガニックビレッジに関しましてなんですけれども、こちらは協力していただきたいということでお話を伺いました。

私もいろいろ舟橋村農業ブランディング機構「ＦＡＢＯ」の仲間とも話し合う中で、じゃどうやったら有機に取り組めるかというところが話題になります。それは結局、出口があるかないかということなんですね。作って、それが、手間がかかりますから、その手間をかけた分、しっかり価格に反映できる、そういう保証というか、そういう出口がしっかり確保されていれば、有機農業にぜひ取り組んでみたいという方は結構おられます。そういう行政側が用意できる出口の一つが、この有機の学校給食の実現ということだと思っております。

千葉県のいすみ市では､市内の小中学校全ての学校給食のお米の比率､有機米１００％を実現しております。そのような出口があると、安心して有機農業に取り組めますし、また市のブランディングにもつながり、市外へのお米の販売も非常に円滑に進んでいるというお話を聞きます。

ぜひこのようなオーガニックビレッジの制度を活用した取組をご検討いただけますと大変ありがたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（森　弘秋君）　村長　古越邦男君。

○村長（古越邦男君）　今ほど古川議員さんからご要望ということでお話を承りました。

先手先手で補助制度等についてやっていってくれということでございますので、その件につきましては十二分に検討してまいりたいというふうに思っておりますので、ご理解を賜りたいと思います。よろしくどうぞお願いいたします。